

# 「丹沢 水無川モミソ沢」～沢登り初体験記

◎日程 6月4日 ◎易しい沢登りシリーズ 第1回「丹沢 水無川モミソ沢」  
◎メンバー Oh (L)、Fj (SL)、Kwch、Machi  
◎報告 Machi

登山、クライミングと同じように会主催で沢登りを企画されることがあり沢に興味を持っていましたが年齢を思うと参加の意思を告げる事はありませんでした。天候等の事情で企画流れになり再度企画が発されると心が騒ぎます。もう年齢的に諸々の制限あるよ・・・無理でしょ・・・つぶやきと共に豚が岩にしがみつくと絵が浮かぶ。明日より今日が若いという持論があり、最後の初体験を試みたいという願望が勝利しました。

時間を経ても経験してみたい気持ちが治まらず指導者、他参加者の迷惑を思いながらも思い切って申し込みました。気持ち良く受けて頂き必要な用具も全て貸して下さるといので用意したのは地下足袋と山ヒル忌避剤のみ。体験なら最初から溪流靴は買わずに、足ごしらえはワラジ+鳶職用地下足袋姿で、地下足袋はワークマンでと店まで教えて頂きました。

当日が楽しみな日を過ごしていましたので写真クラブの先輩で「山も沢も熟知」しているの方に話すと「70越えたら沢は出来ない、止めたほうが良い」一喝口調でアドバイスがありました。さして気にしていませんでしたが実行4、5日前から心の中で止める！コールが復活。2日前からは不安と緊張で眠りが浅くなりました。無理と思っても申込を断わらないだろうインストラクターの胸中を思うと申し訳なく前日はほぼ寝不足でした。

当日渋沢駅に4人集合して駅からタクシーで戸川林道のモミソ沢下り口まで入る。山道の新緑が心の重さを飛ばしていくものの不安は取りついたらまま離れない。沢の身仕度をしてヒル忌避剤を入念に吹き付けてから沢に下る。反対側の新茅ノ沢方面に一人の男性を見かける。

沢の登り口に着き、Ohさんから「Fjさんの足の置き方、置き場所をよく見るように」と教わり目を凝らしているとあっと云う間もなく素早く上方に行きロープを用意された。流水面は滑らないが岩肌は苔で滑って危ないと教わりFjさんの合図でKwchさんが難なくクリア。私も巨体の短足をヨイショと拳げて足元が濡れないようにまずはクリア。

3つ目は???どうやって登るの?膝下まで水中に入って行くが最初の一步の置き場所がない。足はずぶずぶと膝下まで水の中、水の中?とここでPCの質問「地下足袋って濡れないんですね」との問い合わせに返事が無かった訳を思い出した。綿足袋の足ごしらえで水場に来る事へのおバカな質問の糸が解けた。そして水中にいる心地よさを早速味わう事ができ前の人の登り方を見ながら足の置き場を目で確認する事に集中する。僅かな岩の欠け目に足の先を直角に置くと意外に安定する。

ガイドにあった通り小滝の直登が続き、涸棚を越して一滝ずつ制覇する度にゾクゾクとする快感を味わう。難関もあり倒木をくぐりぬけないと完登出来ないところではザックがつかえて通り抜けられない。見上げてつるりんとしか見えない滝もあり、足の幅しかない片側の切り立った場所あり、次は? 次は? 途中で追い越して行った男性が下りてきた。今日は沢の往復だとかハア～。凄いものだ、岩場を猿のように駆け下りていく。

モミソ沢は入沢者が多い時は順番待ちの初級者に大人気の沢だとか。待つでもなく急かされるでもなく遊べるこの日を選んだインストラクターの目利きにも厚く御礼です。空と岩の空間で休憩、食事をし

ていると地球に残された4人の静かさでした。

大棚と言われる12mに及び最後の滝に着く。沢の落ち口まで見上げると丁度緑に囲まれた丸い空間に青空が見えて「高いよ、心して登れ」と天からの声。インストのFjさんが難なく登り安全確保の準備をしてKwchさんが登り切った。その時私は何故か石鎚山の鎖場を思い出していた。山中にただ1人で、岩に凍りついた鎖を懸命に剥がす自分がいた。大棚は鎖場の約10分の1だがぐっと唇を噛む。



(モミソ沢 F-4大棚 12mをリードするFjさん)



(同 後続者を確保⇒)

下から見るとなんとかクリアできそうと思ったが手足が「開いた干物」のように岩肌にへばりつき手も足も動かさない。何処を触ってもつりとして手足で体の保持が出来ない。急かされる訳では無いのだが気持ちがあせっていたのだろう、アドバイスに足を移動させた瞬間両手を離してしまった。ぶらりとなったまま手は何処も掴めない。あせらなくていいからよく見てと落ち着かせてもらうもロープに下げた丸干し大根のようにブラリと宙に浮いたままだ。

恐怖心は無い。こうもしていただけないと顔を上げてホールドを探しやっとなら岩にへばりついた。落ち口に入った時は吸い込んだ酸素を全部吐き出すほどの大きな息をして締めました。やったあ！完登！すぐインストOhさんがゆうゆうと楽しむように登頂してきた。ここに限らず水量が多く沢水が落ちていたら・・・多分今回の経験はなかったかなあ。

下見を重ねての入渓、リーダーの重さ、有難味をこれだけ感じた事はありませんでした。用具は借り物、用語も初耳ですが良く教えて頂きました。(記憶の海馬がとっくに故障している事をお伝えせず申し訳ありませんでした)

明日より今日が若い・・・ですがもう20年若かったら・・・と。

私にとって沢は登山、クライミングの原点だと感じましたので若いほど良かったかと思いました。

大棚から大倉尾根へ向かう草付き斜面は土が柔らかく草を持っても抜けて諸共滑り落ちるし倒木に体を預けても我が身と共にズルズルで一歩進んで五歩落ちる。まさに本日のハイライトで下肢の筋肉の大活躍場面でもありました。お三人の殿方はするすると登りこの差は体重のせいだと己をののしっての格闘が続きました。今日より8キロ減を達成したら次の沢ありと自身に言い聞かせながら一歩を獲得するのに半泣きでした。まるで薄い砂地の急斜面を登るようで本日一番の難所。一歩足を上げると1mは下がり必死で止めるのに脹脛が張っているのがわかる。何処に足を置くかの沢の教訓は生かされずホントに恐かった。足袋の上に履いたワラジのせいもあったようです。草鞋を脱ぐなど思いもつかなかった

が確かに草鞋を取ったら滑りが違った。

尾根に飛び出すと登山客が多く安堵、Ohさんからヒルが付いているかも知れないのでザックは帰宅後も暫くは部屋に持ち込まないようにと最後のアドバイスを頂きました。私は今人生の終いを始めたばかりで初体験をするとは嬉しくて笑いが止まりません。これから歩き始める人生と思うほどの楽しい思いをさせて頂き誠に有り難うございました。

この日のモミソ沢は「70代のカルテット」を静かに見守り楽しませてくれました。そして沢体験舞台の幕は下りました。

お世話になったインストラクターのお二人にはビール風呂、日本酒風呂をご用意させて頂きたい程の感謝です。渋沢駅ではインストラクターお馴染の「いろは食堂」に寄せていただき一層良い心地になりました。

《記録》

9:30 入渓点（モミソ沢岩）—15:00 大倉尾根・堀山—16:30 大倉